

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

『やさしさいっぱい』『ともだちいっぱい』『みんないきいき』瀬ヶ崎っ子

- 「分かる授業」「楽しい授業」を目指して、一人ひとりの子どもをより確かに理解し、学習内容を確実に身につけられるように取組を進め、確かな学力・人間性豊かな子を育てます。(知)
- 子ども同士のかかわりを深め、互いに違いを認め、いじめや差別のないなかまづくりを進め、偏見や差別に対して、「おかしい」と言える子を育てます。(徳)
- 「早寝」「早起き」「朝ごはん」の規則正しい生活をする姿勢を培うとともに食教育を進め、自分や人の生命と体を大切に健康でたくましい子を育てます。(体)
- 家庭や地域と連携を図りながら、自分たちの住んでいるまち「せがさき」をはじめ、金沢区や横浜に誇りをもてる子を育てます。(公)
- 様々な人とのコミュニケーションをとおして、ものの見方や考えかたを広げようとする子を育てます。(関)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

コミュニケーション力
問題発見・解決能力
自分づくりに関する力(自尊感情の育成)

具体化した資質・能力

- 人間尊重の精神に基づき、豊かな人間関係を築いていく力を育みます。
- 身近にある偏見や差別に気づき、それに向き合い、それをなくしていくという心情と行動力を育みます。
- 自然体験や社会体験を通して自ら問題をとらえ、それを主体的に解決していく力を育みます。

中期取組目標

- まちとともに歩み、「だれもが」「安心して」「豊かに」すごせる学校にします。
～令和にふさわしい瀬ヶ崎小学校の在り方を模索する3年間～
- ・子どもに寄り添い、一人ひとりを大切にするとともに、その教育に情熱と使命感をもって臨む教職員集団を目指します。
 - ・学校教育目標の具現化と諸課題の解決に向かって、教職員が一体となって取り組める組織作りをめめます。
 - ・子どもたちが、主体的に学ぶということを大切にして、授業改善に努めます。
 - ・家庭や地域とのかかわりを豊かにし、結びつきを強めていくとともに、これまで大切にしてきた人権教育を、現代的課題をふまえて、さらに重視した教育活動を展開します。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①学校保健委員会を活用し、子どもたちが日常的に自分の健康を意識できる活動をつくるとともに、測定前の時間や読み聞かせの時間を使い、生活習慣について考える機会を充実させることや、長期休みに「生活リズムチェック」を通して、家庭と連携した取り組みを推進する。
担当	体育部・保健部

健やかな体に関わる本校の状況

昨年度の横浜市体力・運動能力調査の結果によると、体力・運動能力は男女ともに市平均と比較して、平均的かそれを下回る結果が多く見られた。どの学年も運動・スポーツの実施状況は市平均程度かそれを上回るものとなっているものの、全体的な運動能力にはうまく結びついていない様子が見受けられる。個々の種目の結果については、一人ひとりの個人差が大きく、生活実態調査を見ても、運動が好きな児童と苦手な児童が両極端に分かれていることがあるので、運動が苦手な児童が体を動かすことに興味をもてるように、子どもたちが運動に主体的に関われる様々な機会を作っていきたい。

今年度の目標

自己の体力や運動能力を知り、自分に合った課題や目標を設定しながら、進んで運動する姿勢をもつ。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	学校保健委員会では、昨年度までの学校全体の運動に関する実態や傾向、保健に関するデータを基にして、健康的でよりよい学校生活を送れるような提案、活動を計画する。 委員会活動では、運動委員会・保健委員会・集会委員会などで連携をしながら、休み時間に共通の運動内容で、各学年や実態に応じた目標を設定することで、運動習慣を意識付けしたり、各クラスに配付した長縄やボールを活用したり、体力テストの結果を基に体力の向上を目的とした活動の提案をしたりと、楽しみながら運動に触れられるようにするとともに、自己の運動能力を知り、運動する経験を積み重ねていけるようにする。
下半期	二度目の学校保健委員会では、上半期の取り組みに対するフィードバックを行い、運動が自分たちの健康への意識や課題にどのような変化があったかについて考える機会を設ける。 委員会活動では、寒くなって休み時間に外に出る児童が減る時期に合わせ、様々な委員会活動で協力しながら楽しく運動できるような活動を企画していく。 10月に行われる運動会に向けて、各学年やブロックで協力をしながら演技・競技の練習を進めていく。特にブロックで行う練習については、本校の伝統である「弟子と師匠」の関係を大切に、互いに認め、励まし、伸び合えるような場とする。